

栄光

説教・
「一番いいもの」
松谷祐二牧師…1
特集・ペンテコステ
力を与えられる
御言葉…2
松谷祐二牧師
就任式報告…4
墓前礼拝報告…5
定期教会総会
報告…5
子どもの日報告…6
長老を退任して…7
長老のファイル…7
牧師の寄り道…8

教 説 『一番いいもの』

マタイによる福音書 6 章 7 節～13 節

松谷祐二

今日は、「子どもの日合同礼拝」

です。子どものみんなは、「子どもで良かった！」って思うことはありますか？ 私は、自分が子どもだったときは、そうは思えませんでした。でも、大人になった今では、「子どもって得だなあ」と思います。どうしてか。いつもみんなの近くにいる、大人の人たち—お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、いつも一緒にいるなら、それ以外の人でもいい—そういう大人の人は、みんなが「子どもだから」っていう、それだけで、「大事にしてあげよう、守ってあげよう、子どもには一番いいものをあげよう」そう思っていて、いることが多いからです。残念ながら、一番近くにいる大

人たちが、子どもを大事にしてくれないどころか傷つけたりする、悲しいこともあります。でも、皆がそうなのではありません。みんなが一番近くにいる大人たちが、子どもを大事にしようと思ってくれている普通の人たちなら、色々、お願いしても、甘えても、助けを求めても、大丈夫です。

ところで、「イエス様はずっと子どもだった」って、知っていますか。神様の子ども、だったのです。イエス様の一番近くにいたのは、神様でした。神様は、イエス様をとて大事にしてくれました。イエス様も、神様を「お父さん」と呼んで、安心して何でもお話ししていました。イエス様にとって、それが「お祈り」だったのです。

イエス様は、みんなに教えてくれました。神様はみんなのことも、神様の子どもにしてくださいさるよ。子どもだから、大事にしてくださいさるよ。何でも神様にお話ししなさい。「お父さん」と呼んで、お願いしなさい。神様は、子どもたちのために一番いいものをあげようと、いつも思っていてくださるよ。だから、お祈りする時は、「天のお父さん、私たちに一番いいものをください」ってお願いしなさい。

「一番いいもの」って何だろう。神様になんと言って、お願いしたいいいでしょう。イエス様は、神様に「一番いいもの」をお願いするお祈りの仕方を、教えてくれました。それが『主の祈り』です。

「天にまします われらの父よ／願わくは み名をあがめさせたまえ／み国を来たらせたまえ／み心の天になるごとく 地にもなさせたまえ…」。

いったい何を願っているんでしょう。実は、こういうことです——「神様が世界中の人から愛されますように。この世界が、神様の国になりますように。神様の願いどおりの世界になりますように」。

に…。これが、イエス様が神様に「お父さん」と呼んでお願いしていた、「一番いいもの」だったのです。

私たちはなかなか思いつかない、すごく大きな、大きすぎること。でも、もし本当にその通りになるなら、こんなにすごいこと、すばらしいことはないと思います。それを、イエス様は私たちに、「遠慮なくお願いしなさい」と教えてくれました。神様は必ず聞いてくださる。神様は、自分の子どもたちを、大事にしてくださいさるからです。もし私たちが、イエス様の言葉を信じて、「天のお父さん」と神様に呼びかけるなら、神様はイエス様だけでなく、私たちのことも、神様の子どもとしてくださるからです。

『主の祈り』には、まだあと半分、お願いの言葉があります。でもそれは、またいつかお話しすることにししましょう。今日は、教会の「子どもの日」。イエス様は、ずっと神様の子どもでした。私たちも、ずっと神様の子どもでいられたら、どんなにすばらしいことでしょう。
(子どもの日礼拝)

ペンテコステ

力を与えられる御言葉

ペンテコステの日、神様は聖霊をとおして
弟子たちに御言葉を伝える力を
与えてくださいました。
力を与えられた御言葉や
家族や友人に伝えたい
御言葉はありますか。
それは何ですか。



イエスさまの祈り、最強！

照内眞知子

「ペンテコステ」原稿のテーマを聞いて、CSミュージカルの曲の一節「ペンテコースター」が最初に浮かびました。

「あなたが元気がない時に、力を与えられたのはどのような御言葉ですか？ また、家族や友人に伝えたい御言葉は何ですか？」との副題。

昨年の愛唱聖句・讃美歌登録の時書き出したのは「恐れない」「動揺しない」「揺らぐことがない」そして「担ってくださった」「携えられた」…でした。聖書の一部だけを取り出して自分勝手に読むのは違っているかもしれないが、祝福され、捉えられ、支えられている幸いの中にあります。

一番、と考えて出てくるのはルカによる福音書22章32節「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを

力づけてやりなさい」。弱くふらふらと日々様々なことに思い煩いながら過ごしている私に、イエスさまが祈ってくださっているとは最強！何も恐れることはない。

もう一か所はヘブライ人への手紙12章28節「感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう」。60年以上前にCSの分級で一緒に読んだ御言葉です。

そしてIIコリントの信徒への手紙1章4節「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます」。

傷ついたり、傷つけたり、悩んだり、今自分では解決できない問題を抱えることがあります。でも、すべてに神様に委ねることにします、難しいですが。今すぐに自分が思う解決が与えられなくても、間違いない答えが用意されている。私はこんなふうに励まされ、支えられて日々歩んでいます。

神様は越えられない 試練は与えない

河野滋由

私は、世に言うアクティブシニアの年代にあります。既に定年退職し、慎ましい毎日ながらもスポーツや、たまの温泉旅行を楽しんでいます。現役社会人時代より、ストレスなく、何かの楽しみを見つながら日々過ごしています。

そんな毎日ですが、心の病気を患わずに今日まで生きてこれたのはコリントの信徒への手紙にある「神様は越えられない試練は与えない」という御言葉のおかげです。これまでの社会人人生で勤務した先は、各々の業界では世に知られた企業でしたが、仕事に求められる目線は高く、朝令暮改ならぬ、朝礼朝改のスピード感があり、求められる収益予算は何回計算しても届きようがない数値レベルの業務環境にありました。

過酷な状況の毎日でも、思い悩まず、明るくなんとか過ごさせてき

たのは、常にこの御言葉があったからです。頑張っていれば、必ず神様は報いてくださる、救ってくださると信じていることができれば、次々に出会う難題にも「今度は何だろう」と前向きに取り組むことができました。

少し話はそれますが、「ハラスメントと感じるか否かは、要は本人がどう感じるか」という意見があります。厳しい組織や難儀な上司に対しても、自分はここで成長していると感じればハラスメントとは感じない。私は、昭和の作法を全て是とするものではなく、人権無視など勿論論外ですが、自己成長の為に難題に取り組む際のポジティブなメンタルマネジメントがあっても良いと考えています。ある著名記者が「朝の来ない夜はない」と言いましたが、これも理念は同じかと。

そんな私は、この御言葉を信じ、事態をなるべくポジティブに捉えて生きてきました。神様のご加護の下、人生享樂的にアクティブシニアライフを楽しんでいきたいと考えています。

教会において

真下健人

テーマのような御言葉は、私にあるのかと思いを巡らせたけれど答えは「否」だった！ さあて、原稿どうしよう？

『栄光』の原稿締切直前の日曜の午後、ひよんなことから「落語家の林家彦いち師匠に学ぶ『後悔しない気持ちの伝え方+新作落語』という文化講座を受講した。彦いち師匠曰く「気持ちの伝え方ってのは熱量なんですよ、熱量。どれだけの熱量がそこに込められているかってことです」。いろいろな例えで説明してくださった。それは、思いの強さとか、思いの量とか、思いの熱さとか、踏み込む勇氣とか、それらすべてかもしれない。

その話を聞いていて、原稿のことで頭がいっぱいだったせいとか、聖霊に満たされた弟子たちが力と勇氣を得て、まるで別人かの如く、時の権力者たちの前で、恐れることなく大胆に、「イエス様の御業」

のことを証しし、多くの言語で伝道をした時って、言葉も勇氣もどんどん溢れてきて、おまけに熱さがあるからすごい熱量だったのではないかと思った。きつと聞いている方はあつという間にノックアウトされて神様の信仰者となつたのではないか。伝道も伝えることだから、だとすると伝道にも熱量が必要なのかだと改めて思う。

そんなことを考えていたら、思い浮かんだ言葉がありました。その言葉は御言葉ではないけれど、教会の誕生日ともいえるペンテコステの時期には特に強く意識してしまう。私の心をざわつかせ、落ち着かなくさせる言葉である。いまも、しれつとこの言葉を掛けてくださる方々は、とても自然体で氣楽に言ってくださっているのだけれど、よくよく考えるところでもない！ 教会から足が遠のいている私にはそこに強い熱量（＝聖霊の力？）を感じて、いつも熱量ありありのその方々を通して神様が御業を示していると思えてきて仕方がない。ちゃんと神様に向き合わざるを得なくなる言葉です。それは、「教会においてよ！」です。

松谷祐二牧師就任式報告

5月4日日曜日の午後2時から
経堂北教会にて松谷先生の就任式
が執り行われました。清々しい5
月の風が吹く中、関係牧師、西南
支区の12教会の方々や教会員など
総勢78人の方々が集まりました。

東京教区西南支区長の北川正弥
牧師の司式のもと就任式が晴れや
かに始まりました。

Iコリントの信徒への手紙3章
4節〜9節より、長く務められた
岸先生の後を引き継ぐ松谷先生の
今後の苦勞を思案され、「人に付
く」ことで分裂が生まれるという
ことを、岸先生をパウロ、松谷先
生をアポロにあててお話しくださ
いました。教会が成長するか混乱



司式・西南支区長 北川正弥牧師

は参列くださった
方々へのお礼と、
岸先生の後任を探
していた時の不安
と松谷先生の赴任
が決まった喜び
を、そして松谷先
生が61歳になった
時、経堂北教会は
100周年、必要な物

するかは牧師のみならず教会員に
よる。一人ひとりが牧師を教会に
迎え入れることを心に誓うための
就任式です。この会に臨む私たち
の決意を説いてくださいました。
これから経堂北教会が大きく成長
する為に、私たち一人ひとりがな
すべきこと、神様への祈りに真摯
に向かいつつ、松谷先生と共に歩
んでまいりたいと思います。

就任式後の懇親会は大西長老の
司会のもと、和やかに進められま
した。祝辞では、東京神学大学教
授の長山道先生は、岸先生の思い
を理解して松谷先生を紹介くださ
ったことを語られ、経堂緑岡教
会の増田琴先生は、教会同士の今
後の関わり合いをお祈りくださ
いました。そして澤田寛子長老から



長山 道先生

は全て神様が準備してくださるこ
とがこれからの楽しみになると語
られました。

松谷先生は、参列者へのお礼と
喜び、新人として経堂北教会で歩
んでいく決意を、教会というより
も、神様から嫌われなければ大丈
夫だという自身のかつての思いも
交えながら、ユーモアたっぷりに
ご挨拶くださいました。

今回の就任式は、松谷先生が自
らご案内くださった大勢の方々が



左から増田 琴牧師、澤田寛子姉、松谷祐二牧師

お祝いに駆けつけてくださいまし
た。懇親会は、松谷先生とご家族
をお迎えした喜びと感謝をもって
経堂北教会の新たな出発を明る
くお祝いする良い会となりました。
懇親会会場にはコロナ禍以降久し
振りにお花や茶菓を用意すること
が出来ました。委員の一人として、
会場の準備から関わってくださっ
た方々や関係の皆さまに心よりお
礼申し上げます。（牧内美和）

墓前礼拝報告

4月20日7時半より春秋苑にて、イースター墓前礼拝が松谷先生の司式のもとで行われました。コロナ禍明けの昨年より再開された墓前礼拝に、今回18人の方が出席されました。前日は4月にしては汗ばむほどの陽気でしたが、その日の朝の春秋苑は少し風が冷たくひんやりとした空気の中、静かに礼拝は始まりました。

「私たちは誰一人、自分のために生きる人はなく、自分のために死ぬ人もいません。生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです」。(ローマの信徒への手紙14・7-8)

招詞から讃美歌82、詩編121編の交読と続き、ルカによる福音書24章1節-12節を聖書朗読した後、松谷先生から「信すべき言葉」の題で御言葉の説き明かしと祝福を受けました。

日々の生活の中で、主を信じる気持ち薄れがちです。十字架の出来事にとどまっていた女たち

が、3日目に復活すると言われたイエスの言葉を思い出したように、主はいつも共にいてくださり、生きて働いてくださっていることを先生の口を通して思い起こすことができました。

春秋苑での初めての経堂北教会墓前礼拝を終えられた先生は、澤田長夫妻の車に同乗され、教会へお戻りになりました。

私たち夫婦にとっても初めて出席したイースター墓前礼拝でした。いつもの礼拝とはまた違う雰囲気包まれる中、主を信じる気持ちと、新しくされ生かされている恵みを、改めて覚える機会となりました。

そして、静謐につつまれた早朝の春秋苑に響く御言葉と、皆さんと共に歌う讃美歌は、イエス・キリストの復活と、36年前に亡くなった門田の父、昨年9月に天に召された母のことに思いを馳せる豊かな時となり、墓前礼拝を喜びのうちに守ることができました。

(門田由紀子)

定期教会総会報告

定期教会総会が4月27日礼拝後に開催されました。出席は78名で、定足数を満たすため、教会総会として成立しました。松谷祐二牧師が初議長を務めました。長老選挙では長老12名の半数6名の改選が行われました。志磨恭子長老が退任し、角田誠終身長老が長老会に復帰しました。志磨長老の労をねぎらい、久保田あけみ終身長老が祈りを捧げました。

2024年度の教勢、各会、団体からの報告について書記長老から説明があり、質問として、社会、総務委員会活動について具体的な内容の説明を求められ、担当長老より説明がありました。また今後の会堂整備計画について質問があり、今後20年間は現在の礼拝堂を修繕して使用する旨説明が行われました。長期修繕計画を立てて定期的に示してほしいとの問いに対して、議長はご意見として承る旨応答しました。

2024年度報告が書記長老から、2024年度会計決算等についての説明が会計長老から、対外

関係費について担当長老から、会計監査報告について河野滋由監査委員から説明があり、特に質問はなく承認されました。

2025年度計画については、昨年度の行事を踏襲して行なっていく旨書記長老より説明があり、特に質問はなく承認されました。

2025年度経常会計予算(案)について会計長老からの説明の後、夏期献金、クリスマス献金の予算が増えている理由について質問があり、現役世代の新規教会員が若干増えたことで増加の期待を含めた予算となっている旨、会計長老が説明しました。採決が諮られ、賛成多数により承認されました。

教会学校校長に石室裕一長老を選出、会計監査委員に河野滋由兄、桜岡元兄を選出、東京教区総会議員に大友太郎長老を選出、西南支区総会議員選出を新長老会に一任、教会総会記録確定を新長老会に一任する議案がそれぞれ賛成多数により承認され、定期教会総会は滞りなく岡田映子終身長老の祈りをもって閉会となりました。

(大西 順)

子どもの日合同礼拝報告

教会は神さまの家であり、私たちは、ともに神さまを信じる家族である。教会ではことあるごとにこのことを思い出す機会がありますが、コロナ禍前ほどではないかもしれませんが。コロナ禍前は、バザーもあり、もちつきもあり、教会学校の子どもたちを含め、教会全体で交流できる行事がそれなりにありました。そういう意味では、今回の子どもの日合同礼拝と、秋の幼児祝福式を兼ねた合同礼拝、教会学校とともに守る年2回の礼拝は、神さまを中心とした家族を体現する貴重な機会となっています。

今年も子どもたちは（そして、



ものすごく新鮮なことに、今年は牧師も）、朝から集合して、心を込めて花かご作りに勤しみました。毎年のことで手馴れている生徒もいれば、初めてだけど初めてなりに周りを見ながらまとめてくる生徒（と牧師）もいます。それぞれの個性が花に表れているのが感じられ、眺めている身としては楽しいものです。

そして、花かごが飾られた中で子どもたちとともに与かる礼拝は、礼拝堂に満ちる空気がいつもと異なります。教会員の優しい眼差し、子どもたちに語りかける牧師の御言葉の取り次ぎ、礼拝後に子どもたちに送られる拍手。どれをとっても微笑ましい瞬間です。子どもたちに何が楽しかったかを

訊くと、「礼拝」と答えてくれる子どもが毎年必ずいます。教会学校だけで守る礼拝と雰囲気は異なるだけでなく、あの礼拝堂に満ちる空気に、聖霊の働きと神さまの愛を感じるからに違いありません。

ん。

礼拝後には、経堂駅と消防署に向いて花かごを届け、カードとともに日ごろの感謝を伝えました。子ども（特に幼児）の足では、消防署までの道のりは少々遠いものです。また、幼児は目移りしてばかりで、なかなか進んでくれません。それでも小学生や中学生の頼もしいお姉さんたちが、優しく率先して面倒を見てくれます。手を引き、抱っこして進んでくれたり、ベビーカーを押してくれたり、「もう少しだよ」と励ましてくれたり。そこにもやはり、聖霊が注がれていること、神さまの愛を感じてなりません。

子どもたち一人ひとりが、これらの聖霊と神さまの業に気づいた時、神さまと出会うことでしょう。普段の子どもたちの様子を見ても、信仰の種は確実に蒔かれて

おり、芽が出ています。その芽が大きく育つように祈り、神さまの代わりに子どもたちの手を引いて歩みたいものです。今年度の教会学校の年間テーマは『御言葉と出会おう』です。子どもたちが多くの御言葉と出会った先に、神さまと出会い、神さまを信じる家族に加わってくれることを信じていると思います。

「アポロとは何者ですか。パウロとは何者ですか。二人は、あなたがたを信仰に導くために、それぞれ主がお与えになった分に応じて仕える者です。私が植え、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させてくださったのは神です」（1コリント3:5-6）

（原 良介）

長老を退任して

4月の教会総会でやっと退任が正式に決まりました。身体の衰えが5年くらい前から進み、在任中も脊柱管狭窄症の手術などもあり、また、元々膝も悪かったことから献金当番や配餐当番もできず、ほかの長老さんたちに御迷惑をおかけしていたので申し訳ないなあと思っていました。

経堂北教会の教会学校に出席しだしたのは小学校3年生の11月でしたので、それから60年を過ぎました。途中3年くらいはアメリカに行っていたのですが、その時は西ロサンジェルスの日系教会に通っていました。考えてみたら、それ以外の教会はイベントの時以外知りません。

私が初めて教会学校に行ったのは11月で、クリスマスの劇の練習が始まった頃でした。よくわかりませんでした。何人かいる天使の役でした。教会学校の先生が岡村先生でした。クリスマスの日の午後、教会学校のクリスマス会が開かれて、歌ったり劇を見たり、出演したり、そして「甘ぼう」さ

んの袋に入ったおやつをいただきたいことを覚えています。母はその年の春に大阪の母教会の先生に村田先生を紹介され経堂北教会に転入会し、その秋から私と幼稚園の年長だった妹を連れて教会に通うようになったのです。

その後もずっと教会学校に通い、高校生会の初穂会までは通い続けました。大学生になって教会学校のお手伝いも始めました。教師会や青年会で年上の方々と親しくさせていただき、ワークキャンプやバザーのお手伝いをする機会も与えられました。卒業後は留学や仕事で東京を離れていましたが帰国後結婚し、教会学校教師をやめた後、問安委員会に入らせていただきました。40年くらい前です。それからドラドラと!?気づいたら70歳になりました。子どもの頃には70歳はすぐおばあさんだと思っていました。なってみるとちよつとおばあさんだけど、まだ出来ることもあるかなと思えます。出来ることはやらせていただいて教会生活を続けられたらと思っています。皆様のお支え、ありがとうございます。(志磨恭子)

長老のファイル

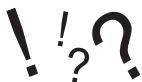
新旧長老会は、子どもの日合同礼拝の後に持たれました。CSの子どもたちが作った花かごが、いつもの礼拝堂を彩りました。長老選挙は見事一回で決まり、新生長老会が発足。長年、長老を担っていたいただいた志磨姉が退任されました。志磨姉の今までの働きに感謝です。長老会では、総会資料に訂正すべき箇所があった等の反省をする一幕がありました。松谷先生は赴任して早々に、資料作成に追われる日々を送っていたと思います。夜遅くまで作業し、長老会当日は1〜2時間ほどしか寝ていないと吐露されていました。我々長老の働きで、少しでも松谷先生の負担を軽く出来ればと思います。

さて、私事ですが初めて長老になつてから1年が経ちました。しっかりと長老の務めを果たせていたでしょうか？ 仕事上、毎週礼拝に出席することは叶いませう。それでも、私が長老として立てられたのは、神様のご計画によるものと信じ、与えられた奉仕を

一生懸命に務めてまいります。今年度は、引き続き図書委員会、新たに伝道委員会に携わります。また、バザー委員会の委員長も仰せつかりました。コロナ禍以降は小規模開催が続くバザーですが、私が学生の頃はドライカレーの匂いの中、CSの子どもたちと焼きそばとフランクフルトを焼いていた。担い手の少ない昨今、もう一度あの頃のバザーを…と思案するのは現実味が無いでしょうか？ 私たち一人ひとりが、勇気と知恵をもつて復活させることが必ずできるでしょう。どうか皆様の力と賜物をお貸しください。

長老会の中で、教会の建て替えの議題になりました。向こう20年は今の会堂を修繕・維持する方向です。松谷先生が定年を迎えるタイミングの後で、牧師館の改築と共に本格的に建て替えをする予定です。財政面等、色々検討すべきことはまだまだありますが、教員全員で取り組んでまいります。新しい会堂が出来た時にまた、子どもたちの小さな手で作られた花かごが、彩りをつけることを心待ちにして。(諸橋鷹広)

個人消息



○大川由美子（大川由美子姉 義妹）

5 月 31 日 春秋苑内納骨堂で、大川由美子姉の納骨式を松谷牧師の司式で行いました。

掲示板



○聖霊降臨日 6 月 8 日(日)

○教会初夏の集い 6 月 22 日(日)

説教・講演 松谷祐二牧師

◎『栄光』電子版のメール配信、主日礼拝の説教要旨のメール配信（礼拝終了より後に配信）を希望される方は、下記メールアドレスまでメールでお申し込みください。その際、件名にお名前と、希望するものをお書きください。

（例）「経堂北太郎、栄光」

「経堂北花子、栄光、説教」

申込先：kyodon@clock.ocn.ne.jp



編集後記



▽毎年ペンテコステに関する原稿をお願いすると「テーマが難しい…」と辞退される方が多く…。今回引き受けていただいた方々に本当に感謝します。（酒井）

「栄 光」2025 年 6 月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11

電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038

牧 師：松谷祐二

編 集：栄光編集委員会

Email：kyodon@nifty.com

HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

牧師の寄り道



教会周辺の地理を理解するのは、牧師にとって大事なことのひとつだろうと思う。最終的には、そこに住む人の生活や文化も含めて理解してこそ「地理」の理解というものだろうが、まずは地名や道を覚えることからである。

もつとも、こういうことは得手ではない。私は空間認識能力がかなり低く、車の運転は危な過ぎてできない。運転しないので、道路

を覚えられない。3月の前半、前任の岸先生が引き継ぎの一環で、春秋苑での納骨式に同行させてくださった。岸先生は運転しながら「ここがスイドウドウロ」「あっちがキタミ」「この辺が〇〇の家」と、助手席の私に沢山情報をくださったのだが、実は「聞くには聞かぬが、悟らない」という有様であった。

それでも、徒歩圏内なら、極めてゆっくりとはあるが、テリトリ（？）を拡大しつつある。恵泉女学園、赤堤通り、赤松通り、

日大文理学部、緑丘中、西福寺通り、世田谷線松原駅、山下駅。町名はこの辺りから桜上水、あちらに行けば赤堤…。繰り返して歩けば、何とか頭に入ってくる。いつ歩いているか？ 探検好きな飼い犬「いちご」が、毎朝、飼い主を無理やり引いて行き、学習の機会を与えてくれるのである。先日は、何となく見覚えのあるまっすぐな道路に行き当たり、そこが「水道道路」だったと知って嬉しくなった。他にも、妻と共に羽根木公園まで。経堂駅から南側はまだ少な

いが、農大通りを歩いて馬事公苑までは行けた。今後さらに開拓していきたい。もちろん、電車や車で行く範囲の周辺地域の学習も、徐々に。

岸先生は教会員に誕生日カードを送っておられた。それを引き継いでカードを送ろうと住所を調べると、比較的近くの方もいらつしやるのが分かる。そうした地図を頭に入れて歩き、郵便受けに直接お届けに伺えるようになると良いのでは？ と、小さな目標を思っている。（松谷祐二）